

国語科学習指導案

単元名 調べたことを報告する文章を書こう～教材名「読書生活について考えよう」

「MDR4調査隊～みんなでクラスを100倍レベルアップさせるための調査報告集を作ろう～」

平成26年6月3日（火）第5校時 第4学年 23名 安芸高田市立美土里小学校 指導者 大丸 哲男

研究主題 自分の思いや考えを豊かに表現できる児童の育成～国語科における「書く能力」を高めるための言語活動の工夫～

1 単元観

- 本単元では、主に学習指導要領の「B書くこと」の内容に示された指導事項ウ「書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと」の能力を身につけさせることをねらいとしている。
- 本単元では、知りたいことをアンケートで調べ、表やグラフなどに整理し、それらに対する考察を加えて文章にまとめる学習を行う。
本教材では、自分たちの読書生活について考えるという課題を解決するために、何をどのように調査するか、調べた結果からどんなことが考えられるかの過程を丁寧に扱っている。
これに沿いながら、表・グラフなどを報告文の構成に位置づけ、考察を加えて論理的な調査報告文をまとめる力をつけていきたい。
このような学習は、各教科や総合的な学習の時間などの中で、調査結果をもとに学習の成果を発信する素地を養うことにつながってくるのである。

2 児童観

- 児童は、これまでに2年生で観察報告文、3年生で調査報告文を書く学習を積んできた。報告文の構成や調査結果を表やグラフにまとめる学習をしてきているが、普段は報告文を書く機会はあまりないのが実情である。
生活の中で見つけた課題について調査方法を考えて調べ、調査結果のまとめ方を工夫することは、本単元が初めての学習の場になる。
- 本学級の児童は、学習課題に対して真面目に取り組むことができる。国語が好きな児童は7割いる。しかし、書くことが好きな児童は5割にとどまる。書くことが苦手な児童の理由として「何を書いていいかわからない」という書く内容が浮かばないこと。「どう書いていいかわからない」という書き方（形式）を知らないことの2つに集約できる。
そこで、日頃の日記や作文指導ではテーマを与えたり、モデル文で書き方を示したりして書く力を高めようと取り組んでいる。

3 指導観

- 指導にあたって、具体的な工夫や手立てを次の3点示す。
1つ目は、よりよいクラスをめざすために、読書生活だけではなく、挨拶や掃除、授業や家庭学習のあり方、休み時間の過ごし方等について考え合い、「みんなでクラスを100倍レベルアップさせるための調査報告集を作ろう」という単元を貫く言語活動を考えた。相手・目的意識を明確にもたせることで、自分たちの学校生活を見つめ直し、調査したいことについてアンケート等の方法を使って調査報告文を意欲的に書いていくと考えたからである。作り上げた調査報告集を全体で交流し合い、実生活に活かしていきたい。
2つ目は、教科書の例文以外にも調査報告文を用意し、2つの文を比較検討させながら書き方の工夫を自ら発見させたい。比較検討していく過程で「調査報告書モデル文」を完成させ、単元のゴールを明確につかませ、学習の見通しをもたせたい。モデル文に沿って学習を進めていけば、調査報告文の構成要素（目的—方法—結果—考察—今後の展望）や表・グラフの活用や文末表現を意識しながら、わかりやすい調査報告文の書き方（形式）を身につけることができると考える。さらに、このモデル文があれば、本単元の学習後も、社会科や総合的な学習の時間などの調べ学習の際にも役立てることができよう。
3つ目は、児童同士による「協同的な学び合い」を大切にしたい授業づくりをしたい。調べたいことを決め、内容に応じて情報を集め、整理するとき、ともしれば個人的な思いだけで調査活動を進めてしまいがちである。各単位時間にペアやグループ内、あるいはグループ間の交流の場を位置づけ、調査の妥当性や、正当性を確認させながら、相手・目的意識を明確にして自主的に取り組ませたいと考える。

4 単元の目標 【学習指導要領との関連】

- 学校生活を振り返り，調査したいことを進んで調べ，調査報告文としてまとめようとする。
【関心・意欲・態度】
- ◎調べたいことについて必要な事柄を工夫して調べ，調べる方法，調べた結果，結果から考えたことを明確にして調査報告文を書くことができる。
【書くこと(1)アイウ】
- 書いた調査報告文を読み合い，書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合い，互いの良さを認め合うことができる。
【書くこと(1)カ】
- 句読点を適切にうち，必要な個所で改行して文章を書くことができる。
【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(工)】

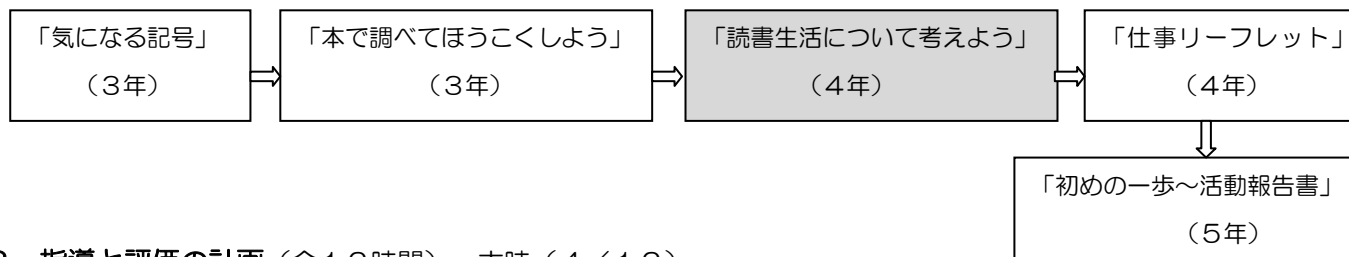
5 単元全体の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
「みんなでクラスを100倍レベルアップさせるための調査報告集を作る言語活動」を通じた指導		
○学校生活を振り返り，調査したいことについて進んで調べ，調査報告文としてまとめようとしている。	◎調べたいことについて必要な事柄を工夫して調べ，調べる方法，調べた結果，結果から考えたことを明確にして調査報告文を書いている。 ○書いた調査報告文を読み合い，書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合い，互いの良さを認め合っている。	○句読点を適切にうち，必要な個所で改行して文章を書いている。

6 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元では「みんなでクラスを100倍レベルアップさせるための調査報告文を書く」という単元を貫く言語活動を位置づける。調査報告文の中に，調査の目的と方法，調査の結果と考察を位置づけることによって，「調べたいことについて必要な事柄を工夫して調べ，調べる方法，調べた結果，結果から考えたことを明確にして書く」という目標を確実に達成できると考える。

7 教材の関連と発展



8 指導と評価の計画 (全12時間) 本時(4/12)

次	時	学習内容	評価		
			観点	評価規準	評価方法
第一 次	1	① 教材文を読み，本単元のねらいや活動の見通しをもつ。	関	○教材文「読書生活について考えよう」を読み，本単元のねらいや活動の見通しをもっている。 ○調べてみたいことを付箋に書き出し，調査項目を考え，KJ法の手法によってテーマをしぼって決めてようとしている。	観察 ワーク シート 付箋 ノート
	2	② 「みんなでクラスを100倍レベルアップさせるための調査報告集を作ろう」という学習課題を設定し，学習計画を立てる。			
	3	③ 調べてみたいことを付箋に書き出し，調査項目をしぼって決める。			
第二 次	4	④ 2つの文を比較し，調査報告文の構成や表現の工夫を見つける。	書	○2つの文を比較し，調査報告文の構成や表現の工夫を見つけている。	ノート 観察

	5	⑤ 調査するためのアンケートを作成する。	書	○テーマに関して、適切な情報を集め、内容ごとにカードを分類している。 ○読み手にわかりやすく伝えるために表やグラフなどを工夫して活用している。 ○モデル文にそって、調べたいことについて必要な事柄を工夫して調べ、調べる方法、調べた結果、結果から考えたことを明確にして調査報告文を書いている。 ○句読点を適切にうち、必要な個所で改行して文章を書くなど推敲している。	ノート 発言 ワーク シート 構想メ モ ノート			
	6	⑥ 調査活動をして、結果を分析する。						
	7	⑦ 自分が伝えたい内容を整理してカードに書く。						
	8	⑧ 書いたカードを整理し、構成メモを作る。						
	9	⑨ 構成メモをもとにして、表やグラフを活用しながら調査報告文を書く。						
	10	⑩ 報告文を読み直し、自分で推敲する。						
第三	1	⑪ 書いた文章を読み合い、よりよい調査報告文になるように、グループ内で助言し合い、推敲する。				書	○グループ内で助言し合い、推敲している。 ○調査報告集を読み合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合い、互いの良さを認め合っている。	報告集
次	2							

9 本時の展開

(1) 本時の目標

2つの文を比較し、調査報告文の構成や表現の工夫を見つけて、まとめることができる。

(2) 観点別評価規準

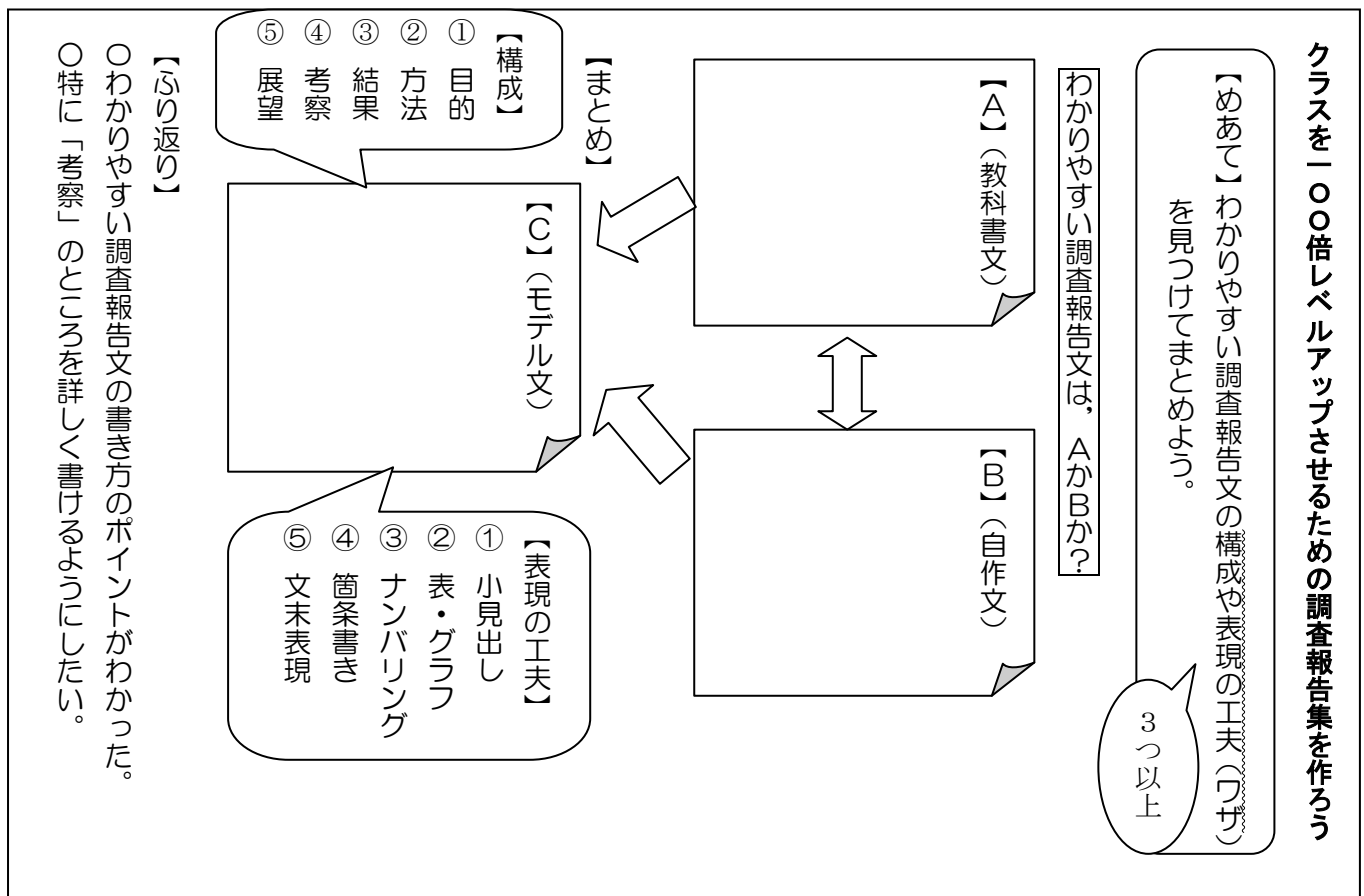
2つの文を比較し、調査報告書の構成や表現の工夫を見つけて、まとめている。

(3) 学習の展開 後述

(4) 準備物

①学習計画表 ②調査項目表 ③掲示用調査報告文A（教科書文）B（自作文）C（モデル文）

(5) 板書計画



(3) 学習の展開

	学 習 活 動	指導上の留意点 (◇)	評価規準 (方法)
		発問 (◎) 予想される児童の反応 (○)	
5	1 本時のめあてを確認する。	◇めあてを板書し、全体で確認する。 【めあて】わかりやすい調査報告文の構成や表現の工夫 (ワザ) を見つけまよめよう。	
20	2 2つの調査報告文を比べて違いを見つける。	◇教科書の文章 (A) と自作の文章 (B) を比較させる。2つの文章の違いを見つけて、サイドラインや書き込みをさせてから発表させる。 2つの文を比較し読み手として、わかりやすい調査報告文は、AとBのどちらですか。	
		◇わかりやすい調査報告文の構成や工夫 (ワザ) について、理由をつけながら発表させる。	
		<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【A】教科書文章</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「アンケート」と調べ方が書いてあってよい。 ○「グラフ」があるから、ぱっと見て結果がわかる。 ○「次の4つです」と数字を書いて、箇条書きでまとめているから、読む人は4つを意識して読める。 ○調査してわかったことと、自分の考えを文末表現で区別して書いているから、よくわかる。 </div> <div style="width: 10%; text-align: center;">⇔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【B】自作文章</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「調べる目的」があるから、何のための調査かがわかる。 ○「今後のこと」もあるから、この調査を通して読書生活をよくしたいという気持ちが伝わる。 ○「なぜかというと～」という理由や「例えば～」という事例が書いてあるから、わかりやすい。 </div> </div>	
		◇児童の意見をもとにキーワードを板書したり、黒板に掲示した文章にサイドラインを引いたりすることで、児童が視覚的に理解できるようにする。 ◇AとBの両方の文章のよいところを集約すると、Cの「調査報告文モデル文」になることをおさえる。	A：調査報告文の構成や表現の工夫を4つ以上見つけている。 B：調査報告文の構成
10	3 調査報告文の構成と表現の工夫をまとめる。		や表現の工夫を3つ見つけている。 (ノート・発言・観察) ※自分の考えがもてない児童には、2つの文章の相違点 (赤線) や共通点 (青線) に線を引かせて見つけさせる。
		◇めあてに照らし合わせながら、本時の振り返りを書かせる。	
10	4 本時の振り返り、次時の見通しをもつ。	【ふり振り返り例】 わかりやすい調査報告文の書き方のポイントがわかった。私は、特に「考察」のところを詳しく書けるようにしたい。 ◇読み手として分かりやすいと感じたことを、自分たちが書く調査報告文にも生かしていく意識をもたせるようにする。	

【A】「一ヶ月に読んだ本の数」調査報告文

四年

光村 図書

〈調べる方法〉

下のアンケートで、問に答えてもらいました。

このクラスの読書量は、昨年度と比べてどうなのかなと、気になったので、同じ問いを立てました。

〈調べた結果〉

三十人全員から回答をもらい、昨年度と同じまとめ方のグラフにしました。結果としてわかったことは、

次の四つです。

- ① 十さつ以上読んだ人が、昨年度は十五人だったのに対して、このクラスは十二人である。
- ② 十六さつ以上読んだ人が、昨年度は八人、このクラスは四人である。
- ③ このクラスには、「0」（一さつも読まなかった人）がいない。
- ④ 四さつ以下の人が、昨年度は七人、このクラスは四人である。

〈結果から考えたこと〉

③④からは、このクラスのよい点が目えてきます。それは読書量の少ない人が少ないということです。全体として、多くの人が本を読んでいると思います。

①については、意見が分かれました。十二人を多いと考えるか少ないと考えるかです。少ないと考えれば、ここは問題点ということになります。

②の十六さつ以上読んだ人は、昨年度の半分です。この差は大きいと考え、話し合いました。そこで出たのは「ページの多い本は、一さつ読むのに時間がかかる。だから、読書量を計るには、本の数だけを調べても分からない。」という意見です。そこから、わたしたちは、次のような案を考えました。それは、みんながつけている読書記録に、読んだ本のページ数を記入数することです。

【B】「一ヶ月に読んだ本の数」調査報告文

四年 大丸 哲男

わたしは四月に五冊ほど本を読みました。このクラスは読書好きな人が多くいます。そこで、みんなは一ヶ月にどれくらい本を読んでいるのか。また、クラスの読書生活のよい点や問題点を知り、もっとたくさん読書をするクラスにしたいと思い、調べてみることにしました。

このクラスの読書量は、昨年度と比べてどうなのかなど、気になったので、調べてみました。

三十人全員から回答をもらい、結果として次のことがわかりました。

十さつ以上読んだ人が、昨年度は十五人だったのに対して、このクラスは十二人でした。十六さつ以上読んだ人が、昨年度は八人、このクラスは四人でした。このクラスには、「0」（一さつも読まなかった人）がいませんでした。四さつ以下の人が、昨年度は七人、このクラスは四人でした。

このクラスのよい点は、全体として、多くの人が本を読んでいると思います。なぜかという図書館の人がおすすめの本を紹介してくれるからではないかと思っています。

次に、意見が分かれました。十二人を多いと考えるか少ないと考えるかです。少ないと考えれば、ここは ということになります。

最後に十六さつ以上読んだ人は、昨年度の半分です。この差は大きいと考え、話し合いました。そこで出たのは「ページの多い本は、一さつ読むのに時間がかかる。だから、読書量を計るには、本の数だけを調べても分からない。」という意見です。そこから、わたしたちは、次のような案を考えました。それは、みんながつけている読書記録に、読んだ本のページ数を記入することです。（後略）

今後のこととしては、もっとこのクラスの読書量がふえてほしいです。例えば、一ヶ月の個人の目標ページ数を決めてがんばることも必要です。目標を達成できた人には、図書係の人からオリジナルのしおりをあげればやる気が出るのではないでしょうか。（後略）

【C】「一ヶ月に読んだ本の数」調査報告文

四年 スカイツリー学級

1 調査の目的

わたしは四月に五冊ほど本を読みました。このクラスは読書好きな人が多くいます。そこで、みんなは一ヶ月にどれくらい本を読んでいるのか。また、クラスの読書生活のよい点や問題点を知り、もっとたくさん読書をするクラスにしたいと思い、調べてみることにしました。

2 調査の方法

下のアンケートで、問いに答えてもらいました。このクラスの読書量は、昨年度と比べてどうなのかなと、気になったので、昨年度と同じ問いを立てました。

3 調査の結果

三十人全員から回答をもらい、昨年度と同じまとめ方のグラフにしました。

① 十さつ以上読んだ人が、昨年度は十五人だったのに対して、このクラスは十二人である。

② 十六さつ以上読んだ人が、昨年度は八人、このクラスは四人である。

③ このクラスには、「0」（一さつも読まなかった人）がいない。

④ 四さつ以下の人が、昨年度は七人、このクラスは四人である。

4 調査の考察（結果から考えたこと）

③④からは、このクラスのよい点が見えてきます。それは、読書量の少ない人が少ないということです。全体として、多くの人が本を読んでいると言えると思います。なぜかというところと図書係の人がおすすめの本を紹介してくれるからではないかと思えます。

① については、意見が分かれました。十二人を多いと考えるか少ないと考えるかです。少ないと考えれば、ここは問題点ということになります。

② の十六さつ以上読んだ人は、昨年度の半分です。この差は大きいと考え、話し合いました。そこで出たのは「ページの多い本は、一さつ読むのに時間がかかる。だから、読書量を計るには、本の数だけを調べても分らない。」という意見です。そこから、わたしたちは、次のような案を考えました。それは、みんながつけている読書記録に、読んだ本のページ数を記入することです。（後略）

五 今後の展望

これから、もっとこのクラスの読書量がふえてほしいです。例えば、一ヶ月の個人の目標ページ数を決めてがんばることも必要です。目標を達成できた人には、図書係の人からオリジナルのしおりをあげればやる気が出るのではないのでしょうか。（後略）